

エコロジー エコノミー



原稿執筆者

まちかど特派員
杉山 祐子(水口町)

先日『川の虫・魚を調べよう』という行事に参加し、水環境について学習しました。主催は水口エコライフの会。旧水口町エコライフ推進協議会の有志でたちあげた市民団体です。生ごみ堆肥化の推進と、水環境の保全に取り組んでおられます。

当日の朝9時。説明を受けた後、早速川の中へ!川の虫や魚を箱メガネで見たり、ペットボトルの仕掛けで魚を捕ったりと子どもたちはおおはしゃぎ。全身びしょ濡れになりながら、大人も子どもも川遊びを楽しみました。飯盒炊さんの後は自分たちが遊んだ野洲川をはじめ、町内の水路の水質調査です。事前に用意された水路の水に試薬を入れ、色の変化を見ました。「うーん、見ただけで汚れているなあ。」「ここはきれいやで。」下水道の整備途中なので、パックテストの値が昨年より大きくなっていた支流もありました。しかし、野洲川の本流でみると「きれい～少しきたない水」に当てはまることがわかりました。会の代表・平井喜之さんは「子どもたちは、自然にふれることにより自然を大切にしようとする心が芽生えます。このイベントも回を重ねるごとに参加者の輪が広がってきています。」と、予想を上回る参加数と子どもたちの笑顔に目を細めながら話してくださいました。

さて、水といえば、昔は現代のように水道も無く、水は今以上に大切に使われてきました。ほんの半世紀ほど前には“茶碗は毎回洗わない”のが当たり前だっ



たとか。その代わりに一人ずつのお膳や引き出しがあり、使用後の茶碗と箸は各自が片付けることになっていたそうです。油の使用量も少なかった為、食事の最後に茶碗にお茶を注いですすぎながら飲めば、汚れはほぼ落とせた、と祖母が言っていました。節水のお手本のような、また少しでも汚水を減らす為の生活の知恵に驚かされました。下水道が完備されても、汚れや農薬を減らした美しい水を循環させることは、私たち生き物にとって、とても重要なことです。また水路に美しい水が流れていれば街は潤い、住む人の心も癒されます。“洗わない”のは抵抗があっても、ポロ布などで汚れを拭いてから食器を洗うのなら大丈夫。洗剤や水の使用量も減り、結果的には家計も助かること間違いなし。エコロジーライフって、エコノミー(経済的)なんですね。

